

解説 豊田町石町で、中生代ジュラ紀の地層から体長 2 cm 程度の小さな亀の化石が見つかり、平成10年（1998）に報告されています。この化石は、現時点では日本最古の亀の化石とされています。なお、豊田町は国内最大級の中生代ジュラ紀のアンモナイトの産出地として知られています。

Q19 角島大橋周辺で見られる柱状節理が横たわったもので、弘法大師が神田附野へ上陸されたさい、暫く薬師如来を安置されたといわれる石をなんと言うのでしょうか？

- ①薬師石 ②結び石 ③六角石 ④如来石 ⑤俵石

答え ⑤俵石

解説 柱状節理には珍しく横に現われていることから地質学の資料としても価値が高い。吉田松蔭先生は、北浦巡歴の際、ここに立ち寄られて、「播き尽きぬ宝の種や俵石」と讃えられました。また、庭の所有者である来見田家は、観涛園と呼ばれ、昔は俵屋という庄屋であった。附野薬師東山寺とのつながりが深く御本尊厨子の鍵を預かる旧家です。

《市 勢》

Q20 下関市は明治22年（1889）に全国で最初に市になった31市のうちの一つですが、全国にも希な市名改称を明治35年（1902）に行っています。下関市となる前の市の名称はなんだったでしょうか。

- ①馬関市 ②赤間市 ③赤間関市 ④穴門市 ⑤関門市

答え ③赤間関市

解説 明治になって市町村制が施行され、明治22年（1889）4月1日に

全国で最初の31の市が誕生しました。その中の一つが赤間関市で、明治35年（1902）6月に下関市と名称を変更しました。当初は下関駅近辺から壇の浦あたりまでの23の町と1村が市となり、人口は30,739人でした。

🗺️ Q 21 下関市は明治22年（1889）に市制を施行しましたが、初代の市長はだれですか。

- ①伊藤房次郎 ②石川良平 ③内田一心
④高洲素介 ⑤原勝一

答え ①伊藤房次郎

解説 明治22年（1889）4月1日、赤間関市として発足した下関市は4月18、19日初めて市会議員選挙が行われ、4月26日付けで初代市議会議長に伊藤房次郎になりました。さらに4月28日に開かれた市会で、伊藤房次郎が初代市長になりました。彼の市長としての在任は2年2ヶ月の短い期間でありましたが、初代市長としての重責を果たし、退任後は社会事業に尽力し、明治42年2月77歳で亡くなりました。

🗺️ Q 22 平成17年（2005）2月13日に、下関市と豊浦郡4町が合併して、新・下関市が誕生しました。さて、新・下関市は東京23区より少し広い面積となりましたが、合併時の広さはいくらでしょうか。

- ①575.67km² ②715.89km² ③820.25km² ④840.18km² ⑤915.79km²

答え ②715.89km²

解説 平成17年2月13日に、下関市と豊浦郡4町（豊浦町・豊北町・豊田町・菊川町）が合併しました。総務省統計局の「平成17年国勢調査報告」（平成17年（2005）10月1日現在）によると、面積は旧下関市が224.16km²、旧菊川町が83.78km²、旧豊田町が163.47km²、

旧豊浦町が75.84km²、旧豊北町が168.64km²で、合計715.89km²となりました。

●Q23 平成17年（2005）合併時の新・下関市の人口は、平成12年（2000）の国勢調査で1市4町を合計した数字で示すと、何人だったでしょうか。

- ①217,382人 ②273,819人 ③301,097人 ④352,418人
⑤401,034人

答え ③301,097人

解説 平成17年（2005）2月13日に合併した下関市の人口は、合併前の平成12年10月の国勢調査で見ると次のとおりでした。旧下関市252,389人、旧菊川町8,203人、旧豊田町6,882人、旧豊浦町20,499人、旧豊北町13,124人で、合計301,097人でした。合併後の平成17年10月の国勢調査では人口は290,693人となっています。

●Q24 下関市が陸続きで接している市町村の数はいくつでしょう。

- ①1つ ②2つ ③3つ ④4つ ⑤5つ

答え ③3つ

解説 長門市、美祢市、山陽小野田市の3つです。

●Q25 下関市の外国人人口は、平成17年（2005）10月1日現在3,891人でした。このうちいちばん多いのが韓国・朝鮮のかたですが、何人だったでしょうか。

- ①978人 ②1,678人 ③2,716人 ④3,213人 ⑤3,671人

答え ④3,213人

解説 平成17年（2005）10月の国勢調査では、下関市の人口は

290,693人でしたが、このうち外国人人口は3,891人。国の内訳は韓国・朝鮮が3,213人でいちばん多く、次いで中国373人、フィリピン73人、アメリカ40人となっています。

🗺️ Q 26 海響館のある「あるかぼーと」は埋立地で、当時この埋立地の愛称を募集して「あるかぼーと下関」となりました。「あるかぼーと」は合成語ですが、港の「ポート」と理想郷の名前を組み合わせたものです。その理想郷とは何というのでしょうか？

- ①アルハンブラ ②アルカトピア ③アールグレイ
④アルカディア ⑤アルカナイカ

答え ④アルカディア

解説 下関市港湾局が東港区再開発推進事業で南部町の海岸線を埋め立ててできた地域です。当時この埋立地の愛称を募集して「あるかぼーと下関」と決定しました。「あるかぼーと」は理想郷のアルカディアと港のポートの合成語です。その名称がそのまま町名となりました。しものせき水族館「海響館」があります。アルカディアは、古代ギリシアのパロポネソス半島中央部の農耕に適さない貧しい山岳地帯ですが、後世、牧人の楽園との伝承が生まれて、理想郷の名前となりました。

🗺️ Q 27 豊北町には難読駅名として知られるJRの「こっとい駅」があります。その「こっとい」とはどのような字を書くのでしょうか？

- ①侍牛 ②持牛 ③待牛 ④時牛 ⑤特牛

答え ⑤特牛

解説 特牛駅は、JR山陰線の無人駅です。駅名は地名「コトイ」に由来しますが、その地名の由来は、牝牛の意味を示す方言の「コトイ」から取ったという説や、日本海に面した小さな入り江を示す「琴江」から取ったという説などがあります。付近の特牛港からは、平成12年

(2000)の角島大橋開通までは角島までの連絡船が出ていました。

🗳️ Q28 下関市では、市の花、木、花木を定めています。さて、市の花はなん
でしょうか。

- ①ハマユウ ②サルビア ③ツツジ ④フジ ⑤サクラ

答え ①ハマユウ

解説 下関市の市の花はハマユウ。ハマユウは、日本の暖地海岸に分布する常緑の多年生草です。ハマユウを中心とした吉母海岸植物群落は市指定文化財、県指定の天然記念物です。

🗳️ Q29 下関市の市の木はなんでしょうか。

- ①ハゼノキ ②ネムノキ ③シイノキ ④ムクノキ
⑤クスノキ

答え ⑤クスノキ

解説 下関市の市の木はクスノキ。クスノキは市内に広く分布し、環境に強く寿命が長い木です。豊浦町にある「川棚のクスの森」は、日本三大クスノキの一つにも数えられており、国の天然記念物です。

🗳️ Q30 下関市の市の花木は二つあります。ツツジともう一つはなんでしょうか。

- ①ムクゲ ②サクラ ③サルスベリ ④ウメ ⑤モモ

答え ②サクラ

解説 下関市の市の花木は、ツツジとサクラです。ツツジとサクラは市民投票で多くの票を集めました。下関市内のいたるところで目にすることができ、広く親しまれている花木です。なお、ツツジ、サクラに関しては、個別の品種ではなく、総称としての名称を採用しています。

🌐 Q31 下関市では、市のシンボルマークは「フクフクマーク」、市の魚は「フク」ですが、市の虫はなんですか。

- ①カブトムシ ②トンボ ③モンシロチョウ ④フナムシ
⑤ホタル

答え ⑤ホタル

解説 市の虫はホタル。下関市においてホタルに関する保護条例を制定。また、木屋川・音信川おとずれがわゲンジボタル発生地は国の天然記念物に指定されており、豊田町にはホタルのミュージアムがあり、毎年、ホタル祭りが開催されています。

🌐 Q32 下関市は昭和46年（1971）ブラジルのサントス市と姉妹都市の盟約を結んで以後、海外4都市と姉妹・友好都市の盟約を結びました。さて、次のうち姉妹・友好都市でないものはどこでしょう。

- ①イスタンブル市（トルコ） ②釜山広域市（大韓民国）
③ナポリ市（イタリア）
④青島（ちんたお）市（中華人民共和国）
⑤ピッツバーグ市（アメリカ合衆国）

答え ③ナポリ市

解説 下関市は海外五つの都市と姉妹・友好都市の盟約を結んでいます。最初は昭和46年（1971）にブラジル連邦共和国サンパウロ州のサントス市と、次に昭和47年（1972）にトルコ共和国のイスタンブル市、1976年に大韓民国の釜山広域市、昭和54年（1979）に中華人民共和国山東省の青島市、そして最後はアメリカ合衆国カリフォルニア州のピッツバーグ市と平成10年（1998）に姉妹・友好都市となりました。なお、中華人民共和国の青島市との提携は友好都市で、それ以外は姉妹都市です。

Q33 現在の市庁舎の位置には南部城なべじょうがありました。南部町なべちょうの大國神社には古くからの町名を刻んだ石が現在も残っています。刻んである町の名は何でしょうか？

- ①城の腰町 ②城之腰町 ③城の越町 ④城之越町
⑤城の超町

答え

②城之腰町じょうのこしまち

解説

南部町の由来は、厚東こうとう武道たけみちが大内氏おおいの軍勢を迎え討った正平年間しょうへい（1346～70）に、ここに築いた南部城によるものです。南部城は大内氏の統制下に入ると厚東氏の手を離れ、毛利元就もうり もとなりの時代には掘立ほたて直正なおまさが赤間関の代官として城を固めていました。城のあった場所は、ほぼ現在の市庁舎の位置で、古くから「城の腰」という地名が残っているのは、その名残です。（「下関の地名・増補改訂版」による）

坂本龍馬は慶応元年（1865）閏5月1日、筑前黒崎から下関に到着します。その日、龍馬は手帳に次のような日記を残しています。「黒崎平町乗船、赤間関に至る。西の端町入江和作を訪ねる。ただし小田村の示しによる。城の腰綿屋弥兵衛に宿す（但し官の差宿なり）。」（「龍馬が愛した下関」一坂太郎より）大國神社の用水の石には「城之腰町」と刻まれています。